

# 数千人調査で異常次々

編集委員

インタビュー

## 医師の認識不足も影響

まつだ

石綿による健康障害  
悪性中皮腫や肺がん、石綿肺などがある。潜伏期間が長く、石綿吸引と発症の関係に気付きにくい。肺がんは喫煙でもリスクが高くなり、労災認定は胸膜ブラークと呼ぶ肺の症状が決め手となる。しかしエックス線写真での判断は難しく、トラブルになるケースが多い。

職業性疾患・疫学リサーチセンター  
関西支部長

水嶋 潔さん

「胸膜ブラークという肺の異常は、過去に石綿を吸い込んだ証拠。ブラークの有無は労災認定を左右する。」

「たばこが原因と判断された肺がん患者のエックス線写真を再読影するところが、労災認定を出す。今後、石綿被害の建設労働者はまだ出でてくる。中皮腫はもちろん、肺がんも増える。リスクもある。」

「エックス線写真ではその区別が難しいのに、医師の判断で救済内容が変わってしまう。労働局は主治医の意見を尊重されることが多い。その後、主治医の意見を覆して労災認定されることは難しい。石綿健康管理手帳健診という国

「エックス線写真の読影はきにくくことも問題だ。医師によって判断が異なる」

「間質性肺炎か石綿肺かで労災など救済措置が異なる。」

「エックス線写真ではその区別が難しいのに、医師の判断で救済内容が変わってしまう。労働局は主治医の意見を尊重されることが多い。その後、主治医の意見を覆して労災認定されることは難しい。石綿健康管理手帳健診という国

「エックス線写真の読影はきにくくことも問題だ。医師によって判断が異なる」

「エックス線撮影とCTが主で肺機能検査がないのが問題。この検査があれば初期のじん肺などの診断につながる」

「神戸港は最大の石綿輸入港だった。港湾労働者に石綿被害は多い。」

「再読影は建設労働者に限ってはいない。関係団体の協力が得られるのなら、港湾労働者の再読影にも取り組む」

アスベスト(石綿)による健康被害を調べ、被害者救済を進める「職業性疾患・疫学リサーチセンター関西支部」が結成され、1年が過ぎた。支部長で医師の水嶋潔さんは兵庫、京都、大阪の建設労働者ら数千人分のエックス線写真を再読影し、肺がんや肺異常の早期発見につなげてきた。水嶋さんは「医師に職業性疾患に対する理解がないと、症状が見過ごされる心配がある」と指摘する。(中部 剛)

「センターの役割は、労働組合、石綿被害者の支援団体、大学教授、弁護士などで構成。昨年6月に関西支部が結成された。現在は兵庫県をはじめ関西各地の労組の協力で健診時のエックス線写真を再読影している」

「そう。ほんどの方が『異常なし』と判断されたが、エックス線写真を確認すると、10機関が診たエックス線写真を見直すということ。」

「再読影とは、一度、医療機関が診たエックス線写真をもう一度見直すということ。」

「前後から胸膜ブラークといふ肺の異常が見つかった。50歳の建設労働者になると

もうと高率になり、20~30%

「なぜ見落とされたのか。」

「石綿を含む粉じん作業の現場で建設労働者が働いてい

たということを十分理解して

いない医師が多いからだ。ま

た、じん肺という病気の診断

も遅れている」

「石綿疾患に対する認識はまだまだ薄い。大工だと分か

りやすいが、配管工や築炉工

など聞き慣れない職種はイメ

ージしにくく、石綿を吸い込

む職場だということが分から

ない。肺がんになつたとして

も、その患者がたばこを吸つ

ていれば石綿は関係なく、た

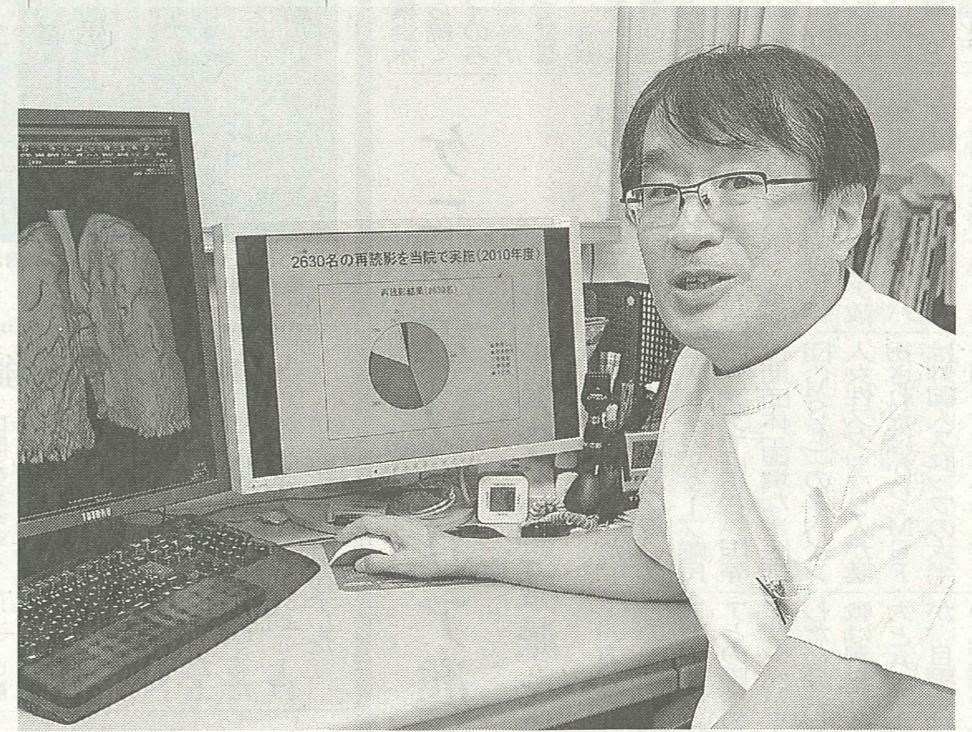
ゞこが原因にされてしまう」

■みずしま・きよし

1960年、大阪府生まれ。金沢大医学部を卒

業後、大阪府東大阪市の東大阪生協病院で勤

務。2008年7月、同市でみずしま内科クリニックを開業した。労働衛生コンサルタントの資格も持つ。



数千人のエックス線写真を診てきた。肺がんの早期発見につながったケースもある。今後、10万人の読影を目指す。そのデータを学会などで示し、石綿被害の実態を訴えた。建設労働者のほとんどが石綿を吸い込み、ブラークがあるものだと考えている。肺がんになれば、ブラークを見つけて労災に結びつけてあげたい。関東と比べ、関西は肺がんの労災認定率が低い。本来なら認定率が同じような数字になるはずだ。労働局で審査する医師の違いだろうか」

「ブラークは石綿疾患の発症リスクの高さを示す。」

「エックス線検査やCT(コンピューター断層撮影)でブラークを確認できなかつた人を解剖すると、約80%から見つかつたというデータもある。エックス線検査で見つからなかつたとしてもブラークがないとは言いきれない」

「石綿健康管理手帳を持つていると健診が無料。」

「エックス線撮影とCTが主で肺機能検査がないのが問題。この検査があれば初期のじん肺などの診断につながる」

「神戸港は最大の石綿輸入港だった。港湾労働者に石綿被害は多い。」

「再読影は建設労働者に限ってはいない。関係団体の協力が得られるのなら、港湾労働者の再読影にも取り組む」